

# 生成AI時代だからこそデータを正しく理解する力、統計的思考力の習得が重要です。

Reスキル講座では多くの実践的な演習を実施します。

<p><b>データの偏りによる誤った結論</b></p> <p>営業部門の平均売上が上がったため、営業研修の効果があったと判断</p> <p>上位2名の売上が大きく伸びただけ、多くの営業担当の売上は変化なし</p> <p>チェーン店におけるある店舗の売上が前年度より増加していたためその店舗の施策を全店に展開</p> <p>実際には近隣新規施設の影響であって、施策自体の効果ではなかった</p>	<p><b>相関関係と因果関係の混同(交絡要因)</b></p> <p>売上と広告費に相関があったため広告費は売上に寄与した</p> <p>人口の多いところは広告費も多いという人口要因(交絡要因)が影響</p> <p>営業研修を受けた社員は売上の成績がいい</p> <p>営業意欲の高い社員が優先的に研修を受けていた</p>	<p><b>効果が別の要因によって変化(交互作用)</b></p> <p>商品デザインを刷新したが、アンケート調査では効果なし</p> <p>調査対象は男性がほとんどだった。女性を対象に調査すると効果は大きかった。</p> <p>営業研修を実施したが、全体的にあまり効果は見られなかった。</p> <p>初心者では効果があるがベテランでは効果が乏しく、全体効果が小さく見えた</p>
---	--	---

## 受講前によくある疑問

<p><b>Q</b> 受講者は分析未経験、文系ですが受講できますか？</p> <p><b>A</b> 受講者の多くは文系出身、分析未経験の方です。本講座は、分析の基礎から段階的に進む演習中心の設計となっており、高度な数学の知識も不要です。</p>	<p><b>Q</b> 受講者、研修目的に応じた講座のカスタマイズは可能ですか？</p> <p><b>A</b> 受講対象者のスキル、業務課題、研修目的に合わせたカリキュラムの調整、受講方法、受講期間の調整、個別メンタリングの実施、発表会の設定等柔軟に対応可能です。</p>	<p><b>Q</b> 生成AIについてはどのように活用しますか？</p> <p><b>A</b> 生成AIのしくみ、活用による効率化、限界等を理解し、積極的に利用します。生成AIの操作ではなく、分析プロセス全体の中で適切に活用する方法を実践的に学びます。</p>
--	---	--

オーダーメイド講座の設計プロセス 詳細は無料相談にてご案内いたします。

<p><b>01</b> </p> <p><b>育成課題の整理</b></p> <p>経営課題、DXの方針、業務課題、既存分析方法・体制、受講者スキル</p>	<p><b>02</b> </p> <p><b>必要なスキルの設定</b></p> <p>データ理解力(処理・可視化)、分析手法の理解、分析ツール、生成AIの活用</p>	<p><b>03</b> </p> <p><b>カリキュラム設計</b></p> <p>目的に合わせたカリキュラムの調整、業種・職種・スキルに合わせた演習事例・課題の設定</p>	<p><b>04</b> </p> <p><b>実施方法の設計</b></p> <p>実施方法(対面・Web)・頻度・期間、個別メンタリング、成果物発表会</p>	<p><b>05</b> </p> <p><b>助成金要件確認</b></p> <p>対象区分・申請条件を確認</p>
---	---	---	---	---

まずは個別相談をご予約ください。 お問い合わせはこちらから <https://datascience.co.jp/corporate/>



統計学～データ分析手法～生成AIを体系的に学び  
ビジネス課題の解決につながる  
実践的なデータ分析力を養成します。

# 生成AI時代に求められる 「データ分析力」 研修のご案内

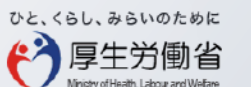
公的な助成金による補助の対象講座です。

第四次産業革命スキル  
習得講座



「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」(通称「Reスキル講座」)は、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図る専門的・実践的な教育訓練講座を経済産業大臣が認定する制度です。

人材開発支援助成金



事業主向け助成金

受講料の **60~75%** の助成金が受けられます。  
助成金の適用には要件確認が必要です。詳細は裏面のURLより弊社サイトをご覧ください。

ビジネスパーソン向け研修実績

多くのビジネスパーソンに受講いただいています。  
(2026年3月現在)

[受講者数] 約 **12,000** 名 [企業・団体研修] 約 **800** 社

# 生成AI時代の競争力は「データ分析力」で決まる。

生成AI時代に求められるのはデータを読み解き意思決定につなげる力です。ツール導入だけでなく、データを理解し活用できる人材を育てることが、組織の力につながります。一方で、そのための研修方法や到達目標に迷う声は少なくありません。私たちは、その迷いを整理し、本質から設計する支援を行います。

## 得られる成果

ビジネス課題の解決につながる「データ分析力」の養成

一貫型カリキュラムで部分最適からの脱却を。

統計理論だけ、Pythonだけ、生成AIだけを学んでも、実務での再現性には結びつきません。「問いを立てる」から「説明する」までが繋がって初めて、ビジネスインパクトを生み出します。

### データ分析力 1

問いを立てる力

業務の目的を整理し、明らかにすべきことを設計する



### データ分析力 2

ばらつきを理解する力

平均値の裏にある差や傾向を読み解き、誤った判断を防ぐ



関係を正しく理解する力

因果関係、交互作用、交絡要因、データの背後にある構造を正しく理解する



### データ分析力 3

説明して活用する力

分析結果を資料化し、組織の意思決定に結びつける



オーダーメイド講座で養成

## オーダーメイドで設計する 職種・課題・スキルに合わせた「データ分析力」の養成講座

### 1 目的に応じたオーダーメイド設計

講座の目的例

- 階層**
- 新入社員向け
  - 実務担当者向け
  - マネージャー向け
  - DX推進担当者向け

- 職種**
- マーケティング担当者向け
  - 営業部門向け
  - DX担当者向け

- 業種**
- 製造業向け
  - 小売・EC向け
  - 金融機関向け
  - 医療・ヘルスケア向け

- 課題**
- 社内・社外データの活用
  - データ分析力の強化
  - DX人材の育成
  - AIの活用

### 2 Reスキル認定講座を活用したデータサイエンティストの育成

個別に対応した研修カリキュラムの提供、助成金の活用が可能

Reスキル講座 × カスタマイズ + 追加講座

Reスキル講座(第四次産業革命スキル習得講座)をベースに、目的に応じた内容のカスタマイズ、及び必要に応じた追加講座により、個別に対応した研修カリキュラムの提供が可能。また、助成金の活用により研修費用の大幅削減が可能です。

選べる Re スキル講座

□ ビジネスデータサイエンス実践力養成講座

□ ビジネスパーソン向けデータサイエンティスト育成講座

□ マニュファクチャリングデータサイエンス実践力養成講座

□ マーケティングデータサイエンティスト育成講座

□ メディカルデータサイエンス実践力養成講座

#### Reスキル認定講座の基本カリキュラム

- |        |           |                  |
|--------|-----------|------------------|
| STEP 1 | 統計理解      | データの背景・特性を理解する力  |
| STEP 2 | 仮説構築・分析設計 | 問いを整理、分析手法を設計する力 |
| STEP 3 | 分析手法の実装   | 手法の本質的理解による分析実践力 |
| STEP 4 | 生成AIの活用   | 分析の効率化・高度化       |
| STEP 5 | 成果物の提出    | 個別課題の解決による意思決定力  |

### 3 Reスキル認定講座における課題解決発表提出事例

受講者の所属業界  
小売



**テーマ** 売上と販促施策・天候の関係分析

**分析内容** 重回帰分析により各要因の寄与度を算出

**感想** 数学が苦手でしたが、統計が不安でしたが、会議で自信を持って説明できました。

受講者の所属業界  
製造



**テーマ** 工程条件と不良発生率の関係分析

**分析内容** ロジスティック回帰で不良要因の影響度を定量化

**感想** 感覚的に把握していた不良原因を数値で把握、説得力ある改善提案が可能に！

受講者の所属業界  
人材



**テーマ** 社員の離職要因分析と早期検知

**分析内容** 決定木分析で離職リスク要因を可視化

**感想** 離職の兆候をデータから読み取り、対策を具体的に議論できました。

受講者の所属業界  
物流



**テーマ** 効率とコスト要因の分析

**分析内容** クラスタリングと回帰分析でルート効率を評価

**感想** 経営層への配送ルートの改善提案にデータを用いることが可能になりました。

## 組織の変化

### 講座で組織を変える

一人ひとりの変化から、組織文化が生まれ変わる

特別な一部の専門家だけが分析できる状態から、現場のプレイヤー自身がデータを語り始める状態へ。「感覚や経験」に頼っていた会議が、「データと根拠」をベースにした建設的な議論へと進化します。

#### 組織の変化 ①

意思決定のスピード向上

現場でデータに基づく仮説検証が完結する。



#### 組織の変化 ②

提案の説得力強化

経営層への報告が、揺るぎない数値根拠によって支えられる。



#### 組織の変化 ③

共通言語の獲得

部門の壁を越え、データという客観的な指標で協働できる組織へ。



学びを組織で活用